



自己点検・評価報告書
平成 28 年度・平成 29 年度

本学は、高等教育機関として全学的に点検活動、評価に取り組んでいる。本学では、部署（総務部、経理・財務部、教務学生部、通信教育事務部、図書館）、常設委員会、関連規定に基づく委員会のすべてが、年度開始当初に PDCA サイクルを用いた改善シートを作成し業務及び活動に従事し、恒常的な検証を試みている。

その部署・委員会の改善シートは、教授会において目標、計画、取り組みと成果について精査し、組織内部の質保証を試みている。この PDCA サイクルによる改善シートを用いた部署、委員会活動により、日常的に点検・評価が可能な体制が構築されている。

本学では自己点検・評価として2年度分の PDCA サイクルによる改善シートの要点をまとめており、本報告は、平成 28 年度、29 年度の自己点検・評価報告書となっている。

1. 本学の教育の質向上及び学習成果の獲得に向けて

(1) 平成 28 (2016) 年度

促進・強化を要する事項	取組の結果
①厳密かつ妥当な成績評価の促進について	①新たな成績評価基準「秀」の導入に伴い、改めて教員説明を行い、客観的な評価の指標（規準を示し）、厳密かつ妥当な評価について共通理解が図られた。カリキュラムのすべての科目の成績評価が完全に条件を担保できていない可能性も含めて、今後も研修会を深めていく必要がある。
②FD 活動の推進について	②本学の FD 活動の柱のひとつである授業公開と参観による自己研修の枠組みを変更した。その目的を満たす自己研修報告シートを導入し、教員の意識を高め各教員が抱く課題解決の手掛かりを得られる体制へと強化された。一方で公開授業に参観する教員の姿勢や行動において課題も散見された。
③本学独自科目「キャリアアップ」の評価について	③科目に導入されている PDCA サイクルによる授業改善シートから科目の効果をより具体的に検証することを目的として、内容ごと（一般教養、保育実践など）に分析を、担当教員に要請し改善された。
④保育者としての資質向上について	④こども学科実習指導委員会を中心に学生と向き合った全学的な指導を展開し、学生生活のなかで実習に臨む姿勢、服装、身だしなみ、挨拶、マナー等が定着するよう取り組みを行った。実習記録が的確に記述できるよう、教科担当者と協力し指導体制の強化も図った。実習評価アンケートの結果、実習態度、出勤状況、挨拶、身だしなみ等は「よくできた」「およそよくできた」と評価を受けた学生が 93%となり、知識、技能の実習簿の記述の適切さについても、「できなかった」が 9%（3名）あるがそれ以外の学生は肯定的な評価を受けるに至った。
⑤保育者養成機関としての人材育成について	⑤学生指導委員会を中心に大学生活の中で、学習成果を意識した指導を行った。入学式後の保護者会において、「本学学生としての質を高めるために」を説明し、本学の教育方針に理解と協力を促した。「学生の将来のため」を合言葉に、教員集団として一貫した指導を展開し一定の成果が得られた。 学生指導委員、教務学生課により自家用車、オートバイ通学をする学生への入構や駐車マナーの徹底を促した結

	<p>果、本年度大きな違反もなく、大きなトラブルも起きることもなかった。</p> <p>新入生歓迎会の企画・運営において、学生実行委員会の主導性を担保するよう教員が取り組むことで、学生の主体性や責任感等が高められた。</p>
⑥奨学生基準の明確化と支援の促進について	<p>⑥奨学生として学び続け学生自身の成長に結びつく、奨学生に求める条件や「活動状況表」の評価基準について精査し、その結果をもとに4者面談（保護者、本人、担任、奨学生委員）を適宜実施した。本学独自の奨学生のボランティア活動の対象クラブを3つに整理したことで、より活発な地域貢献活動が行われた。</p>
⑦進路指導・編入について	<p>⑦学生個々の資質や学びの状況を把握した指導を展開するために、担任、実習委員会及び保育・教職実践演習担当者等を連携の強化に努めた。保育士・幼稚園教諭への進路希望者に対して、知識・技能、礼儀作法等に関わる補習を行った。</p> <p>進路指導ガイダンスを開催し、就職活動の方法や講演会、1年次より履歴書の書き方や面接指導を行い就職に対する意識や対応力の向上に取り組み、就職模試を実施した。過去3年間の卒業生と就職先に対して、就労状況に関する外部アンケートにより、本学の教育の成果などを把握した。</p>
改善を要する事項	取組の結果
①カリキュラムの洗練化について	<p>①科目間の内容重複の確認に向け従来の授業計画書に加え科目担当教員に講義ノート（各回で取り扱う内容）の作成と提出を求める取り組みが開始された。</p>

(2) 平成 29 (2017 年) 年度

促進・強化を要する事項	取組の結果
①厳密かつ妥当な成績評価の促進について	①本学の教育の質的向上に向けて、成績評価に対する教員研修会(成績評価の在り方など)を実施し、その適切性の強化を図った。学生への定期試験の結果公表について、本学の規則について教員の共通理解が深められた。
②新着任教員及び非常勤教員の本学の教育理解について	②本学の教育理念から3つの方針、教員に求められる事項及びFD活動について説明会を実施し共通理解が図られた。
③授業計画(授業概要)の質的な向上について	③科目担当者から提出された授業概要の記載項目、留意事項などの点検基準を設け、教務及び教育改善実施(FD)委員会による系統的な確認作業が行える体制の構築が図られた。
④ディプロマポリシーに適合した保育者としての資質向上について	④普段の学生生活の中から実習に臨む姿勢、服装、身だしなみ、挨拶、マナー等の定着及び、実習記録の適切な記述に向けて、教科担当者と緊密な連携の上で、こども学科実習委員会が中心となり指導を行った。 本年度の実習評価アンケートの結果、実習態度、出勤状況、挨拶、身だしなみ等は「よくできた」「およそよくできた」と評価を受けた学生が94%を超え、知識、技能の実習簿の記述の適切さについても、「普通」1名を合わせて85%の学生が肯定的な評価を受けるに至った。
⑤就職支援に向けて模擬試験の実施と支援体制の評価について	⑤進路指導・編入委員による1年生、2年生に向けた就職対策講座を継続実施した。1年生には一般教養模試、2年生については、保育教職、専門教養の模試と内容を状況に合わせたものへと変更が図られた。 卒業を控えた2年生に進路・就職支援に関するアンケートを実施し、「就職にあたり役に立ったと思うことはなんですか」に対して、「教員からのアドバイス」が占める割合が非常に高く、次いで「先輩からの講話」「実習園の園長や教諭」となり、現在の進路・就職支援の効果性について確認することができた。
改善を要する事項	取組の結果
①FD活動のひとつ公開授業について	①公開授業の参観後に教員が提出する「自己研修報告書」において自己研修という認識が薄く、参観した教員の授業評価(教員間評価)の意味合いが濃くなっており改善が必要であった。学科会議において資料を配付し説明会を実施することにより改善を進められた。

<p>②学園祭の「育ち合いのなかまづくり」と「食のフェア」の目的を果たすための環境づくりについて</p>	<p>②「和花季ひろば」（2日間）へより多くの方々が参加できる交流プログラムの企画運営を行った。昨年度よりも異世代間交流を強く意識し出演団体を選定し、食のフェアの出店者に当日来場を求める形式への変更、学生の役割に販売補助を策定した。</p> <p>異世代間交流を目的として「育ち合いのなかまづくり」、地産地消を目的とした「食のフェア」に対して「目的が達成できたと思う」がともに82%となった。</p>
--	--

(3) 平成30(2018)年度以降の課題事項及び改善計画

改善を要する課題事項	改善計画
<p>①過去3年の卒業生の就職先アンケートの結果は、多くの学生が本学の教育により学習成果を獲得し、保育者として社会人として肯定的な評価を受けている。しかしながら、保育者として基本的な知識や技能が身に付いていない18%（1年目）していないという評価や20.3%の離職率も看過することはできない。</p>	<p>①教員一人ひとりが保育者養成課程のカリキュラムを担う自覚と責任をより一層意識し、教育改善実施（FD）委員会と協働し教育の質向上に努めることが求められる。そして担任、学生生活において、学生指導委員会、こども学科実習委員会、進路・編入委員会等がより連動性を担保した学生支援や指導を展開していく。</p>

2. 高等教育機関としての人的物理的な体制・環境整備について

(1) 平成 28 (2016) 年度

促進・強化を要する事項	取組の結果
①職員研修機会の促進について	<p>①職務改善推進 (SD) 委員会により各部署の研修計画を事前に内容確認し、必要であれば追加の依頼を行った。そして研修結果を集約し大学全体の SD 活動の状況を把握した。</p> <p>大学コンソーシアム SD フォーラム等に参加し、その情報を関係部署や委員会にフィードバックするとともに、全学的な研修会が 2 回実施された。</p>
②ハラスメント防止について	<p>②「ハラスメント防止のためのガイドライン」を全学生に配付するとともに、ガイドラインに沿って説明し、教職員を含めて認識と理解を深め啓発に努めた。</p>
③図書館利用の促進について	<p>③通学課程及び通信教育課程の学生、地域の方々が利用するためホームページ上で図書館カレンダー公表を定期的に掲載した。新着図書の情報について、現物展示の他図書館掲示板、食堂前に資料種別ごとに実施した。図書リクエストの受付を積極的に行うなどした結果、図書館新規利用者登録が増加した。</p>
④ 2つの公開講座による地域貢献の促進について	<p>④高等教育機関における公開講座の意義をあらためて確認し、公開講座委員会を中心に企画・運営を行った。音楽リサイタルには 389 名の方々の来場があり、アンケートにおいて、スタッフの対応、総合的評価において肯定的な評価が 85% となった。</p> <p>パソコン講座に従事する学生ボランティアには、研修会を設け内容の理解及び補助としての役割認識を促した。アンケートの結果、学生ボランティアに対して非常に高い肯定的な評価が得られた。</p>
⑤火災・自然災害に対する体制の強化について	<p>⑤自衛消防隊組織を編成し、消防署立会いの下、防災訓練の実施し、教職員及び学生の意識向上と対応力の強化に努めた。消費期限等を確認した結果、常食等の備蓄の一部が整備された。毎年同日開催であった防火・防災訓練を、異なる日時、状況で実施し現実的なシミュレーションとなった。</p>

⑥食堂のサービス向上について	⑥利用者のニーズを少しでも満たすサービスについて、学生、教職員にアンケートを実施し、多くの意見が寄せられた事項について、食堂を運営する業者に要望書を提出した。課題要望内について交渉し一部実施することができた。少人意見をどのように扱うかが課題といえる。
⑦教職員のネットワーク・セキュリティの理解向上について	⑦日々の職務によりネットワーク・セキュリティに関してセミナー形式での実施は、日々の職務の多忙さによる日程調整等の課題があったため、オンラインでの受講という形式により実施した。しかし、このような形式であったが、すべての教職員の受講に至らない点が課題となった。
改善を要する課題事項	改善計画
①入試対策学生募集について	①各種委員会運営調整委員会からの提案事項である本学の給付型奨学生制度が求める入試区分の評価の見直し改善結果、面接方法、調査書を含めた評価について精査し、入試区分の特性をより満たす内容に整備した。加えて、過年度生に対する本学独自の奨学生の入試区分及び経済的家計状況に特殊性のある沖縄県に向けた入試区分を設けた。

(2) 平成 29 (2017 年) 年度

促進・強化を要する事項	取組結果
①オープンキャンパスの運用について	①本学の地域に根ざした保育者養成機関としての魅力と特色を高校生の視点に立ち、内容の見直しを行った。課題学園祭やこどもフェスタなどの案内を本学への進学志望者に向けて提供する。
②ハラスメント防止について	②本年度はキャンパスハラスメント防止セミナーに2名の教職員が参加し、ハラスメント事例と予防に関することについて、委員会で共通理解し、取り組みを進めた。ハラスメント防止のガイドライン及びポスターによる啓発活動について検討する段階に留まっており、課題となっている。
③2つの公開講座における地域貢献について	③パソコン講座はWord講座(25名)、Excel講座(18名)が受講し、アンケートによる総合評価が、両講座とも80%を超える結果となった。学生ボランティアに対しても前年同様非常に高い肯定的な評価を得ており、地域に根差した公開講座となっている。
④本学の教育情報公開の現状について	④「日本私立学校振興・共済事業団からの情報公開に関する調査票」に準拠した項目に対応できるように、総務部において各部署からの情報集約を系統的に行い、公表が行われた。 学内データの管理運用をこれまで以上に徹底するために、「学内データの管理運用マニュアル」を完成させることが課題である。
改善を要する課題事項	改善計画
①入試区分について	①入試区分の精査改善結果現代の社会的な課題と言える児童養護施設の進学希望者のニーズに応える新たな入試制を確立し、近隣地域の児童養護施設を巡回し説明を行った。
②研修会の充実 職務改善推進(SD)について	②各部署の研修計画について 高等教育機関の職員に求められる基礎的な技能に伴う研修会の実施 本年度、全体研修会として教職員に共通して求められる基礎技能として、個人情報保護とその取扱いについて外部専門家を招き全体研修会を実施し、職務のため参加できない者については、後日VTRにて受講する形で実施した。さらに、総務課と協力し階層別研修会の実施を依頼し、外部講師を招聘し「管理職研修会」と「中堅職員研修会」を実施することで職務推進を図ることができた。

③救命救急事態について	③衛生委員会により教職員（認定こども園も含む）を対象に AED 講習会を実施し、救命救急に事態に対応可能な体制づくりが図られた。
促進・強化を要する事項	取組結果
①本学の給付型奨学生制度及び評価方法の精査について	①本学の給付型奨学生制度が求める入試区分の評価の見直し改善結果面接方法、調査書を含めた評価について精査し、入試区分の特性をより満たす内容に整備した。 加えて、過年度生に対する本学独自の奨学生の入試区分及び経済的、家計状況に特殊性のある沖縄県に向けた入試区分を設けた。

(3) 平成 30 (2018) 年度以降の課題事項及び改善計画

改善を要する課題事項	改善に向けた計画
①本学の実情を鑑みて必要な研修内容を考え、各部署内研修をはじめ実施し効果が確認できているが、全学的な研修会への参加率を高め、また研修内容の高度化に向けた取り組みが求められる。	①職務改善 (SD) 委員会と教育改善実施 (FD) 委員会により中心となり改善に向けた取り組みを行う。職務の関係上、参加することが叶わない場合が多くあるため開催時間帯の工夫や複数回の実施、VTR やオンライン形式等を検討するとともに、研修内容の高度化に向けて引き続き外部講師を招くことを検討していく。

卒業生就職先アンケート（追跡調査の結果）

平成 28 年度 10 月末実施（平成 28 年 12 月 17 日現在）

園施設 アンケート回収 74/90 件（回収率 82.2%）

問 1 本学卒業生は、現在の貴園（貴施設）で勤務していますか。

勤続年数別男女

	1 年目	2 年目	3 年目	所属変更・異動	退職
男	6 人	3 人	1 人	1 人	2 人
女	21 人	12 人	12 人	1 人	2 人
無回答	0 人	0 人	0 人	2 人	11 人
小計	27 人	15 人	13 人	4 人	15 人
計	59 人				
合計	59 人				

就職継続率		離職率	
59/74	79.7%	15/74	20.3%

問 2 本学卒業生は、社会人としてのマナーなどの基本が身に付いていましたか。

	1 年目	2 年目	3 年目	所属変更・異動	退職	全体
ア：基本は身に付いている	17 人 63%	11 人 73%	10 人 77%	4 人	8 人	50 人
イ：若干不足している	8 人 30%	3 人 20%	3 人 23%	0 人	5 人	19 人
ウ：身に付いていない	2 人 7%	1 人 7%	0 人	0 人	2 人	5 人

問 3 本学卒業生は、保育者としての必要な知識・技術が身に付いていましたか。

	1年目	2年目	3年目	所属変更・異動	退職	全体
ア：基本は身に付いている	15人 56%	10人 100%	8人 62%	4人	8人	45人
イ：若干不足している	6人 22%	0人	3人 23%	0人	4人	13人
ウ：身に付いていない	5人 18%	0人	0人	0人	1人	6人
無回答	1件	0	2件	0	2人	5人

一般企業 アンケート回収 13/16 件（回収率 81.3%）

問1 本学卒業生は、現在も貴社に勤務していますか。

勤続年数別男女

	1年目	2年目	3年目	所属変更・異動	退職
男	0人	1人	1人	0人	0人
女	2人	5人	2人	0人	0人
無回答	0人	0人	0人	1人	1人
小計	2人	6人	3人	1人	1人
計	12人				
合計	13人				

就職継続率		離職率	
12/13	92.3%	1/13	7.7%

問2 本学卒業生は、社会人としてのマナーなどの基本が身に付いていましたか。

	1年目	2年目	3年目	所属変更・異動	退職	全体
ア：基本は身に付いている	1人 50%	5人 83%	3人 100%	0	0	9人
イ：若干不足している	1人 50%	1人 17%	0	1	1	4人
ウ：身に付いていない	0	0	0	0	0	0

問3 本学卒業生は、貴社の業務に専念し、努力し発展に貢献できていましたか。

	1年目	2年目	3年目	所属変更・異動	退職	全体
ア：努力し役立っている	1人 50%	5人 83%	3人 100%	0	0	9人
イ：期待している	1人 50%	1 17%	0	1	0	3人
ウ：役立っていない	0	0	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0	1	1

問4 本学卒業生について、どのようなことでも結構ですでお聞かせください。

本学卒業生に寄せられた肯定的な声

[平成26年度卒業生]

- ・新任ながら頑張っている。休日でも出勤し、保育準備を行っている。真面目で熱心である。
- ・謙虚な姿勢で、積極的である。書類関係も丁寧な字で書き、内容もしっかりしている。保育の技術は、就職後に指導すれば伸びる。これは問題ではない。人として、素直さや謙虚さがある人こそ保育者にふさわしい。家庭教育が大きく影響していると思うが、是非、大学でも人間性を高める教育をお願いしたい。
- ・苦情を言うようなこと、注文は何もない。よい人材をお世話下さりありがたい。
- ・この仕事には、心根の優しさ、温かさが大切である。〇〇さんにはそれがある。長く続けてほしい。
- ・一年目にしてはよく頑張り、一生懸命に声をからして4歳児を相手に奮闘している。
- ・真面目に仕事に取り組んでいる。トライやるウイークの生徒の指導係を頼んだ。上手に指導していたのに感心した。コミュニケーションをとるのが苦手だと聞いていたが、全くそんなことは感じられない。
- ・真面目で礼儀等もよく、仕事に対しても前向きでよくやっている。
- ・保育者の基本である笑顔のよさを兼ね備えている人である。指導を受けたことを忘れないように細かくメモしている姿は、養成校での指導であろうと感心している。
- ・幼児教育の実習の成果か、日誌も細かく記し、入所者に共感しつつ真摯に世話をしている。重症者に対しては最初、怖がる新入職員が多いが、本人が積極的にアプローチし関わっていると高評価であった。
- ・真面目に意欲的に仕事に向き合って取り組んでいる。目配り気配りもできる。明るい笑顔で職員とも接し、素直で、保護者にも好かれるタイプの人物である。

[平成27年度卒業生]

- ・積極的に分からないことは質問し、指導されたことは、素直に実行する心構えができています。
- ・挨拶や振る舞いがしっかりしている。また、笑顔で子どもと接することができるので安心して任せられています。
- ・障がい児施設1年目でこれから多くのことを学ばなければならないが、真面目な就労姿勢であり、現時点では新任職員として受け入れられている。
- ・最初はどうか心配な職員であったが、芯が強く、打たれ強いので今後伸びていくだろう。マナー等に関して

も問題なく真面目である。

- ・日勤と夜勤がシフト制となっているため、夜勤は対応する子どもが二倍になり、ややしんどい勤務になっていたり、新人の職員に対して「試し行動」をすることが多く、本人も当初はかなり落ち込んでいたり疲れていたようだが、最近は慣れて元気よく勤務している。
- ・支店長からの評価は高かった。基本的なコミュニケーション能力が高く、明るい性格で、積極的に仕事に取り組んでおり、期待しているとのことであった。
- ・笑顔があり、子どもへの対応もよく、幼稚園に向いている性格と思われる。
- ・着任当初の挨拶や振る舞いなどしっかりしている。また、笑顔で子ども達と接することができるので安心して任せることができている。
- ・4月終わりごろは、かなり苦しそうであったが、最近は乗り越えたのか充実している様子である。明るく好青年なので好感を持っている。頑張っていてほしい。早く仕事のノウハウを覚えてほしい。
- ・笑顔がとてもいいので、子ども達がすぐ懐き。施設としては助かっている。他の職員との関係性もよい。
- ・真面目に勤務し、利用者との関係性はよくできている。補助の支援員は全員年配の方で、とてもかわいがってもらっているとのことであった。ただ、記録を書くことについてはかなり苦労している様子であった。
- ・大変よくやってくれていて、先生方や子ども達からも大変好印象を持たれている。
- ・持ち前の元気さと明るさで、毎日の仕事に精力的に励んでいる。
- ・明るくまた元気に店舗のカウンターにて、毎日顧客のサービスに携わってくれていて、大変満足している。

[平成 28 年度卒業生]

- ・明るく真面目によくやっている。
- ・指摘事項はなく新人としてよく評価されている。就職動機に不安を感じていた〇〇は真面目に仕事の積み重ねができていて、こちらが想像していた以上の高い評価であった。
- ・保育とは分野の違う職場（農地関係）であるが、前向きな姿勢で勤務しており、高い評価であった。卒業生の職場を訪問している本学の姿勢に驚かれていた。
- ・大学において、保育技術だけではなく日常の掃除などの指導が良くできている。
- ・頑張っている。元気で休むことがない。きちんと書類を仕上げているし、質問をして分からないことを解決しようとする姿が見られると褒めていただいた。
- ・とてもやさしい人で、子どもにとっても丁寧に寄り添える。気転がきく。素直に指導を受けている。
- ・但馬地方からの職員が数名いるが、みんな根気強い。〇〇さんを見ていて、豊岡短大さんは、きちんと学生を指導されているので安心である。
- ・〇〇さんは頑張り屋で素直である。分からないことはきちんと質問をする。こちらも育てがいがある。近年の豊岡短大生は、人間性を育てて就職させられていることがよくわかる。
- ・まだまだ未熟ではあるが、先輩の指導を素直に聴いて学ぼうとする姿勢があるので評判はよい。甘え上手である。やさしい心の持ち主であり、子ども達もよくなっている。
- ・笑顔や挨拶が良くできている。声もしっかり出すことができる。何事にも積極的であり、即戦力として役に立っている。ただ、親とのコミュニケーションには苦労しているようである。実践でしか学べないのかもしれないが、大学でも指導のあり方を考えてもらえるとありがたい。
- ・概ねよくやっている。子ども達の言うことをよく聞き、子どもの気持ちに寄り添って丁寧に対応するので、子ども達からとても慕われ、頼りにされている。指示に対して適格に対処し、行動するのでスタッフの中でも信頼されている。